



共に育ち、共に学ぶ！交流及び共同学習

天王みどり学園では、交流及び共同学習として「居住地校交流」と「学校間交流」を行っています。特別支援学校に通っている児童生徒が、自分の住んでいる地域の小・中学校へ行き、学習や学校行事等に参加する「居住地校交流」。小学生、中学生、高校生同士の同年代交流や、世代を超えた交流も行われている「学校間交流」。どちらも多様性を尊重する社会の形成において、大きな役割を果たしています。今号では、交流及び共同学習の意義や、それぞれの交流の実際を紹介します。

交流及び共同学習で期待されること

特別支援学校の児童生徒にとって

地域の同年代の児童生徒と活動を共にすることで、新たな体験や経験から学びを得たり、人と関わる力を高めたりすることが期待できます。また、地域での人間関係を広げることは、将来の豊かな生活につながっていきます。

小・中学校、高校の児童生徒にとって 地域の人々にとって

地域の仲間として支援学校の児童生徒と関わり活動を共にする中で、互いの個性を認め、思いやりの気持ちを育むことが期待できます。また、障害に対する正しい理解を自然と深めていくことも期待できます。

居住地校交流

今年度も小学部 7 名(5 校)、中学部 11 名(8 校)が居住地校交流を実施しました。初めは緊張した様子でしたが、一緒に活動したり、友達から言葉を掛けてもらったりするうちに笑顔が見られ、有意義な交流となりました。

今年度の実践紹介

【令和6年度実施小学校】

秋田市：飯島南小学校 土崎小学校、男鹿市：船越小学校、潟上市：追分小学校、五城目町：五城目小学校



図画工作科

「いろの見えかた むげん大」
友達とセロファンを使って色の重なりを楽しみました。



音楽科

「リズムをかさねてたのしもう」
友達とじゃんけん列車をして交流しました。



特別活動

「みんなでからだを動かそう」
友達とリトミックを楽しみました。

その他に・・・

○特別活動「お楽しみ会」 ○体育科「みんなでつないでナイスシュート」

○学級活動「ともに楽しめる交流会を開こう」

【令和6年度実施中学校】

男鹿市：男鹿東中学校、三種町：琴丘中学校、井川町：井川義務教育学校

秋田市：秋田北中学校 飯島中学校 外旭川中学校 土崎中学校、五城目町：五城目第一中学校



保健体育科

「サッカー」

友達とペアになって、パスを受けてシュートをしました。



技術科

「延長コードの制作」

ドライバーを使ってネジ締めをしました。



美術科

「色をつかって描こう！」

三原色を混ぜ合わせ、いろいろな緑色をつくりました。

その他に・・・

○保健体育科（ボッチャ、ハンドボール）○学級活動（スマイルボウリング）○英語（交流活動）

居住地校の児童生徒の声

- ・少しドキドキしたけれど楽しく活動ができてよかったです。また会えるのを楽しみにしています。
- ・久しぶりに会えて、懐かしい気持ちになりました。また来る機会があったらいつでも来てください。

交流の事前事後学習として、交流児童生徒の担任

等が学校へ訪問し、児童生徒の紹介や関わる際のポイントについて説明する機会も設けています。

居住地校の先生の声

- ・小さい頃から一緒に過ごしてきた仲間もいると思うので、交流の機会を大切にしていきたいと思いました。
- ・普段は見られないような、思いやりのある行動をとれる生徒の姿が見られて嬉しかったです。

保護者の方の声

- ・交流会の内容を考えてくれて、同じグループの児童が優しく言葉を掛けてくれていた姿を見ることができて嬉しかったです。
- ・交流校の子ども達の成長も見られて嬉しかったです。皆同じ人間なので、個性や気持ちなど分かり合い、お互いが必要とされる関係が築ければ良いと思います。

ありがとう! 弘戸小学校

昨年11月15日(金)、本校の小学部4～6年生と弘戸小学校高学年23人との学校間交流が行われました。

弘戸小の友達が準備してくれた「お店屋さんを回ろう」では、牛乳パック積みで新記録を出すなど、友達と大いに盛り上がりました。

弘戸小学校の閉校で、交流会はこれが最後ですが、心温まる交流会になりました。

弘戸小学校のみなさん、ありがとうございました！



学校間交流

今年度の学校間交流では、小学部で払戸小学校や追分小学校との交流、中学部で五城目第一中学校とのボッチャ交流などが行われました。高等部では、近隣の高校との交流だけでなく、世代を超えた交流も行われています。一部をご紹介します。

高等部2年生と男鹿工業 高等学校電気電子科3年 生との交流

<ねらい>

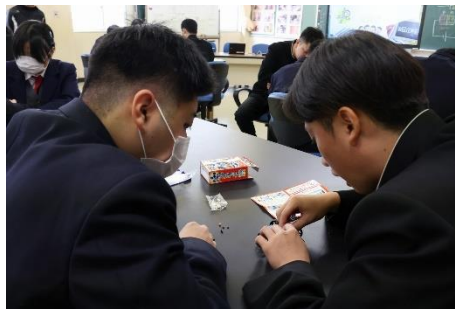
- ・同じ地区の高校生の取組を知ったり、自分達の取組を紹介したりする。
- ・制作活動を通して、SDGsの実践について考えたり、同世代との交流を深めたりする。

11月26日、男鹿工業高等学校へ高等部2年生9名が訪問し、交流を行いました。始めにお互いの学校紹介をし、その後は持続可能な再生可能エネルギーについて講話していただきました。交流ではソーラーミニカーを制作し、二酸化炭素を排出しない太陽光発電について知るよい機会になりました。同じ世代の高校生が協力して活動し、交流を深めることができました。

～お互いの学校紹介～



～ソーラーミニカー作り～協力して作りました



高等部アグリサービス班 追分幼稚園との交流 (さつまいも堀り等)

<ねらい>

- ・園児と共に活動することを通して、生徒の経験を広め、積極的な態度を養い、社会性や人間性を育てる。

5月から10月までの間に約3回、追分幼稚園との交流を行いました。さつまいもの苗植えや収穫、焼き芋の火起こしを手伝いました。

子ども達に優しく苗を植える向きを教えてあげたり、収穫の時は掘りやすいように土を寄せてあげたりする姿が見られました。元気いっぱい子ども達との楽しい交流となりました。

～苗植え～



～収穫～楽しく収穫しました



～焼き芋の火起こし～



地域研修会

「もし、突然他児に飛びかかる子どもがいたら
どうかかわりますか？」

1月24日、上記をテーマに本校の小野直子教諭(兼)教育専門監を講師に、地域研修会を開催しました。今年度も対面あるいはオンラインでの参加とし、校内職員と合わせて23名の参加がありました。

今回は、問題行動と言われる行動について、『兎の眼』という本の内容を話題にしながら、3つの事例を取り上げ、テーマについて考えました。私たちから見えている子どもたちの行動には、必ず行動の背景や要因があるということ、そしてその行動を「問題」という視点だけで対処するのではなく「間違った自己主張」「未熟な自己表現」という視点で捉えて、子どもの話を丁寧に聞き取ったり、「応用行動分析」の枠組みを活用して子どもの行動の背景を考えたりすることについて、演習をしました。最後は「子どもたちと『どうかかわるか』を校内や園内の支援体制の中で考えつくっていくことが大切だ」と述べました。



☆応用行動分析(ABA)とは…☆

- 目に見える行動を拠り所として子どもの気持ちを分析し、気持ちを表す望ましい表現、できそうな表現を目標として定め、みんなで子どもにかかわっていくというもの
- 「望ましい行動」を考えていくときは、「ぎりぎり許せる行動」も設定して考えていくことが大切 (長澤正樹, 2022)

応用行動分析(ABA)

ステップ1

目に見える行動をよりどころとする【分析】

ステップ2

望ましい表現を目標として定める【検討】

ステップ3

みんなで子どもにかかわっていく【対応】

(長澤正樹, 2022)

まとめ…どうかかわるか

☆「どうしたいのかな?」「なんでかな?」からスタート

- ・子どもを **知る** (トータルで、保護者との信頼関係と連携など)
- ・子どもを **見る**、子どもに **聞く**
(例: 応用行動分析の枠組みを使って、見る、考える)
- ・子どもと **関係性** を築く

☆一緒に **作戦** を立てて、**試してみる** 機会を大切に

「子どもは成長(変容)の途中」という視点を大切に

参加された方の感想

応用行動分析は何気なくやっていることを形式にして考えることで、頭の中や状況が整理され、生徒のことを様々な角度からみられるので、今後活用していきたいです。

「どう対応するか」ではなく「どうかかわるか」という言葉は、改めて今後の基本姿勢として大切にしていきたいと思います。

子どもの行動の背景を考えながら寄り添い、チームで一緒に考えていくことを大切にしたいと改めて感じました。

今後もインクルーシブ教育に関わる内容を取り上げてほしいと思いました。

「兎の眼」の物語や、具体的な事例からお話いただき、イメージをもって聞くことができました。

秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL:018-870-4611 FAX:018-870-4612

教頭:佐川 透 教育専門監:小野 直子 地域支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター(男鹿市立船川第一小学校内):月・水・金

TEL:0185-24-3231

特別支援教育アドバイザー[小松 美幸]

